

かわねほんちょう 議会だより

第34号

平成26年5月発行

発行 / 川根本町議会

編集 / 議会だより

編集委員会

* も く じ *

- 予算特別委員会報告…………… 2～3
- 3月定例会報告…………… 4～5
- 一般質問…………… 6～13
- 議会日誌・編集後記…………… 14

徳山の桜まつり(4月6日)

況を報告します

審査日 3月6日～13日

▶ 予算特別委員会



3月定例会初日（4日）に町長から提出された「平成26年度川根本町予算」は、同日設置された予算特別委員会（委員長鈴木多津枝議員・副委員長中澤莊也議員）へ審査を付託されました。

6日～12日まで担当課別の審査が行われ、13日には現地調査の後、委員会採決を行い、7つの予算案は全て原案通り可決されました。委員会での主な審査内容を報告します。

一般会計

総務課 ○山村開発センター工事請負費1231万円は昨年調査で指摘されたクラック修繕費。委託料231万円は耐震補強計画策定委託料。○本庁舎の照明LED化に1579万円。○常備消防費2億3143万円は、北分遣所職員1名増員に

よる委託料増額と28年度広域化に向けた無線デジタル化整備負担金3413万円で5746万円増額。○非常備消防費の工事費4324万円は耐震性防火水槽3カ所（徳山、上長尾、久野脇）と藤川、奥泉の消防詰め所建設費。災害対策の資機材整備に2662万円。

企画課 ○高度情報基盤整備事業費15億2396万円は光エリアと無線エリアに分け全戸へ端末を配備する。6月議会前に入札を行い、議決後本契約する。27年4月からサービス開始。医療や見守り等への活用は、今後意見を聞きながら進める。○

レールパーク構想検討事業は10名の検討委員会や、関係機関・住民グループ等のワークショップ開催等を予定。○空き家バンク事業382万円はホームページでの情報発信と空き家改修補助。

福祉課 ○透析患者の通院費1/2補助。20数名居られるが当町での透析は腎臓専門医が必要で難しい。外出支援の利用が増え予約が取れないことも。1台購入し増やす。○地名保育園の再開は保育所運営委員会検討する。26年度は建物の安全性調査に70万円。○保育料は据え置く。○国民年金の受給者3492人、受給額2億2千万円。

生活健康課 ○水痘・おたふくワクチン接種料を全額補助。中卒までの医療費無料化に入院・食費の無料化を拡大。

産業課 ○農産物集出荷補助150万円は年10万円を限度に1/2補助。○耕作放棄地再生利用対策補助金の減額は国の後期計画が未整備で予算計上できなかった

ため。○茶草場補助25万円は5ha分。○有害鳥獣捕獲報奨金6百万円はサル70頭、シカ2百頭、イノシシ150頭他。○カモシカ個体調整報奨金250万円は50頭分との説明。

商工観光課 ○ユネスコエコパーク推進事業費961万円は6月登録に向けて住民へ周知の南アルプス紹介DVD（映像）全戸配布やパンフレット作成費。○南アルプス国立公園指定50周年事業に105万円。○徳山ときどんへのトイレ整備は区より要望が来っていない。桜祭りには2千人余の入り込み客があり駐車場整理など支援の要望に対し、戦略的に活性化を図るよう支援するとの回答。○三つ星キャンプ場の遊具整備290万円に、自然を求めて来るキャンプ場でない住宅や茶茗館への設

（単位：千円）

会計名	年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
一	般	5,185,000	5,645,000	5,513,000	5,972,000	7,695,000
	国民健康保険事業	1,000,000	978,500	932,700	948,600	1,016,000
	後期高齢者医療事業	110,100	107,100	118,100	117,100	127,000
	介護保険事業	1,008,900	1,062,800	1,091,900	1,094,800	1,233,100
	簡易水道事業	314,500	369,500	246,000	294,300	286,500
	温泉事業	28,600	32,700	29,100	30,600	44,200
	いやしの里診療所事業	40,600	42,300	46,400	54,600	44,900
合	計	7,687,700	8,237,900	7,977,200	8,512,000	10,446,700

平成26年度予算総額104億4,670万円

予算特別委員会の審査状



◀ネギ畑視察
(放棄茶園対策・梅高)

置や、指定管理者が決まった不動産の滝キャンプ場の整備に回すべき等の意見に、検討するとの回答。○ウッドハウスおろくぼの照明LED化243万円は指定管理者より経費節減で要望があった。

建設課

○地籍調査費2389万円で約600万円減。前年に続き水川、上長尾の一部0.96km²の測量・一筆調査・素図作成。○徳山野志本住宅は昭和47年、耐震基準前の建築。他の住宅への移転を進め28年を目的に解体。○区

道は災害復旧でも区負担がある。

生涯学習課

徳山の盆踊りは国指定文化財でありながら唯一調査報告書がない。26年度に調査し27年度に報告書を策定するとの説明。

教育総務課

○川根高校生下宿補助創設。1人月7万円の内3万円を町が補助。○小・中学校就学援助金(要・準要補助)の対象所得を生活保護基準の1.3倍から1.5倍へ拡大。○学校給食費は据え置き、職員分は3%引き上げる。地元食材は金額で1%位使用。お茶は農協から購入して毎食出している等の説明。

特別会計

国民健康保険事業

医療費増を基金の取り崩しで対応してきたが残高が1億円を切った。一般会計からの繰入で値上げ回避をとる

意見に、共同事業拠出金分の繰入があるだけでも助かるとの回答。

後期高齢者医療事業

普通徴収者460人、特別徴収者1840人。26年度は2年毎の見直しで県の広域保険料と同額に引き上げられる。

介護保険事業

3年に1度の計画策定。給付額が増え25年度に不足が見込まれる1千万円を県の財政安定化基金から借りる予定。27年度から3年間の必要額に算入され、保険料は算定に上積みされる。

簡易水道事業

○水道施設維持管理業務委託料2365万円の増額理由は、向井飲供・坂京飲供が町管理となり事業量の増加。○水道料は消費税で3%引き上げとなる。

温泉事業

工事請負費3213万円で約1千5百万円

増は千頭温泉の泉質が変わりスケール付着が激しく3〜4年毎に管を引き上げ、ポンプのオーバーホールが必要になったため。修理に3ヶ月かかるので今後は予備ポンプ購入も考えた。寸又峡温泉引

湯管布設替えは240m。27年度で終了との説明。
いやしの里診療所
研究研修費で997万円の減額は、緑茶効能研究費の減。9月に終了。結果に期待との回答。

◆平成26年度一般会計 財源別予算構成比 【歳入】

	区分	予算額(千円)	構成比(%)
自主財源	町 税	1,311,081	17.04
	分担金・負担金	32,535	0.42
	使用料・手数料	58,329	0.76
	繰入金	921,240	11.97
	繰越金	100,000	1.30
	その他	83,205	1.08
	小計	2,506,390	32.57
依存財源	地方交付税	2,350,000	30.54
	国庫支出金	731,888	9.51
	県支出金	528,412	6.87
	町債	1,380,200	17.94
	その他	198,110	2.57
	小計	5,188,610	67.43
歳入合計		7,695,000	100.00

◆平成26年度一般会計 項目別予算構成比 【歳出】

	区分	予算額(千円)	構成比(%)
歳出合計	議会費	73,713	0.96
	総務費	2,378,220	30.91
	民生費	1,285,164	16.70
	衛生費	668,289	8.68
	労働費	1,912	0.02
	農林水産業費	538,814	7.00
	商工費	311,092	4.04
	土木費	330,743	4.30
	消防費	421,192	5.47
	教育費	590,257	7.67
	災害復旧費	17,352	0.23
	公債費	1,063,252	13.82
	予備費	15,000	0.19
	歳出合計	7,695,000	100.00

2014年度 川根本町予算

総額104億4,670万円を 賛成多数で可決!

3 月 会 定 例



▲3月議会本会議の様子

▼議員からの質問に答える鈴木町長



平成26年第1回定例会は、3月4日から18日まで開催されました。欠員となっていた教育委員の選任や、消費税率改正等に伴う補正予算・条例改正と最終日に追加提案された大鐵減便による通学支援の補正予算など、28件の議案は全て原案どおり可決されました。そのほか意見書等5件が議員から提出され、全員賛成で可決されました。

条例関係

- ◎道路占用料等徴収条例
- ◎流水占用料等徴収条例
- ◎普通河川条例
- ◎簡易水道事業給水条例
 - …賛成多数で可決
- 以上4件は消費税増税に伴う占用料及使用料増額に対する条例改正です。
- ◎奥大井音戯の郷条例
 - …全員賛成で可決
- 今回の改正により管理棟内ラウンジを希望者に貸し出すことが可能になりました。
- ◎町育英奨学金条例の一部改正
 - …全員賛成で可決
- 奨学金の額を月額「1万円以内」から「2万円以内」に改正するものです。
- ◎いやしの里診療所条例の一部改正
 - …全員賛成で可決
- 2年に1度行われる診療報酬の見直しと、

▲一般利用が可能となった音戯の郷ラウンジ



- 消費税率改正に伴う手数料等の改正です。
- ◎町障害程度区分認定審査会の委員の定数等を定める条例の一部改正
 - …全員賛成で可決
- ◎町社会教育条例の一部改正
 - …全員賛成で可決
- いずれも上位法の改正に伴うものです。
- ◎町職員給与に関する条例の一部改正
 - …全員賛成で可決
- 4月からの県教育委員会との人事交流に備えて、給与表の一部を改正するものです。

補正予算

- ◎平成25年度川根本町一般会計補正予算(第5号)
 - …全員賛成で可決
- 補正後の額
63億2145万6千円
(2億9662万9千円の減額)
- 緊急地震対策事業基金積立金の追加、町道改良工事や林道復旧工事等費用の追加が主なものです。
- ◎平成25年度川根本町一般会計補正予算(第6号)
 - …全員賛成で可決
- 補正後の額
63億2518万8千円
(373万2千円の増額)
- 「創造と生きがいの湯」ポイラー改修工事費に係る補正です。
- ◎平成25年度川根本町国民健康保険事業特別会計補正予算(第3号)
 - …全員賛成で可決
- 補正後の額
10億3千450万円(2千743万円の増額)
- 今年度の実績見込みに基づく医療費の増額補正です。
- ◎平成25年度川根本町介護保険事業特別会計補正予算(第4号)
 - …全員賛成で可決
- 補正後の額
11億8115万円
(4944万3千円の増額)
- 電算システム改修業務委託料の追加と実績見込みに基づく保険給付費の増額が主なものです。
- ◎平成25年度川根本町いやしの里診療所事業特別会計補正予算(第4号)
 - …全員賛成で可決
- 補正後の額
5052万5千円
(705万2千円の減額)
- 診療所運営経費の実績見込みによる補正です。

◎平成26年度川根本町
一般会計補正予算（第
1号）

…全員賛成で可決
補正後の額

77億790万6千円（1
千290万6千円の増
額）

大鐵の減便に伴う県
立川根高校（徳山）への
支援として、町がスク
ールバスを購入するも
のです。

人事案件

◎教育委員の任命

…全員賛成で可決

中原 緑氏（千頭）

その他

◎川根本町と静岡市と
の間の消防指令業務に
関する事務の委託

…全員賛成で可決

平成28年4月からの
消防救急業務広域化に
向けて円滑な事務移行
とするため、消防指令
業務を静岡市へ委託す
るものです。

◎新町建設計画の変更
について

…全員賛成で可決

合併特例債の発行期
間延長により、同計画
の内容を変更するもの
です。

◎公の施設の指定管理
者の指定

○町障害福祉サービ
センター（みどりの丘・
みどりの丘えまつ）

…全員賛成で可決

【指定管理者】

町社会福祉協議会

会長 原田全修

○不動の滝自然広場オ
ートキャンプ場

…全員賛成で可決



▶1年ぶりに指定管理者が
決定した不動の滝オート
キャンプ場

【指定管理者】

組合 400

組合長 鈴木 諭

◎町議会会議規則の一
部変更

◎議会全員協議会運営
規程の制定

…全員賛成で可決

今まで事実上の会議
として開催していた全
員協議会ですが、協議
又は意見調整の場とし
て、より活発で円滑な
議会運営や議会活動を
行っていくために、規
則等で明文化しました。

意見書等

◎リニア中央新幹線建
設に伴う大井川河川流
量減少予測への対応に
関する意見書

3月末に県がJR東
海へ提出する知事意見
書へ、大井川の流量や
水質保全、自然環境へ
の影響などを環境影響
評価書へ反映させるこ
とを強く要望しました。
今回、本町を含む流

域7市2町各議会から
同様の意見書が県へ提
出されました。

◎新聞をはじめ生活必
需品に消費税の軽減税
率の導入を求める意見書

4月から消費税率が
改正されましたが、本
意見書は、複数税率の
導入と、新聞をはじめ
生活必需品に対する軽
減税率の適用を国へ要
望するものです。

◎大井川鐵道の大規模
便計画に関する要請書

定例会初日の翌日（5
日）、議長以下議員4
名が議会を代表して大
鐵本社へ出向き、伊藤
秀生代表取締役社長へ
直接要請書を手渡し
ました。減便による住民
生活への影響を懸念し、
ダイヤ改正案の見直し
や通学生徒に配慮した
便数の確保などを要望
しました。

※意見書等は「議会だ
より速報版第63号」で
も紹介しています。

平成26年度一般会計
と6つの特別会計予算
は、18日の議会最終日
に委員長報告の後、採
決が行われました。

一般会計と後期高齢
者医療事業・簡易水道
事業特会の反対討論に
対し、賛成討論があつ
た一般会計の討論要旨
を紹介いたします。

26年度町一般会計予算に・・・

反対!!

賛成!!

当町の最大の課題は、
子育て支援、若者定住
支援、誰もが安心して
住み続けられる町づく
り。

26年度一般会計予算
は17億2千3百万円（約
29%）の増額となつて
いるが、少子高齢化に
対応し保健・医療・福
祉の充実や高度情報基
盤整備事業の着手、ユ
ネスコエコパーク登録
等、地域活性化のため
の政策の展開や、多彩
な地域資源を生かし、
人間と自然の共生をめ
ざした地域間交流の促
進などを重点に置いた
ためのものである。財
源も国県補助金や合併
特例債などを有効に活
用、後年度負担にも十
分配慮した予算である
と考え、賛成とする。

（鈴木多津枝議員）

（小藪侃一郎議員）



中澤 莊也 議員

問

◎空き家や空き家情報の収集と適切な利活用について
◎有能な人材の発掘と活躍の場の提供等について

質問 「にぎわう町 みんなのふる里づくり」プロジェクト推進について。
①良好な住宅・宅地の供給について②空き家や空き家情報の収集とその適切な利活用について③町遊休地や荒廃農地等の有効活用について④農業振興地域（青地）の全町の見直しについて。

との連携も強化していきたいと考えている。
③町の遊休地の売却等については、町有財産有効活用検討委員会において方向性を検討し、売却可能な遊休地については、広報等を行いながら対応していきたいと考えている。荒廃農地等は営農を行っている農地の中に点在しているため、全体的な宅地としての事業計画は立案しにくい状況にある。④農用地区域、青地とすべき土地は、法により定められた要件があり、それに基づいて指定をされており、これは農用地として利用すべき土地を明確にし、国土保全・農地保全を図るものであり、法の精神に鑑み、農業振興地域の見直しは慎重に行うべきだと考えている。

質問 地域資源の発掘と有効活用について
①徳山の盆踊・梅津神楽等地域で伝承されている駿河神楽の保存伝承について②やまびこ資料館の有効活用について③ユネスコエコパークの認定に向けた取り組みについて④有能な人材の発掘と活躍の場の提供等について。
町長 ①文化財の保存・伝承を図るため、川根本町文化財保存整備補助金を設けている。この補助金は、神楽の舞や笛の実技指導のために活用され、その伝承等の一翼を担っている。徳山の盆踊については、調査報告書が作成されていないので、平成26年度に調査を実施し、平成27年度に調査報告書を作成する予定である。②南アルプスエコパークの登録の動きもあり、その拠点としての利活用を考えている。③寸又峡並びにやまびこ資料館等を中心に



遊休地の有効活用を

て、拠点として活躍の場をつくりたいと思っている。④平成26年度から水と森の番人マイスター認定制度を実施していく。マイスターに認定された方は、町内外を問わず、その技能や知識を広めるよう、その分野でのリーダーとして積極的に活動していただく。町においても、ホームページ等に登録、活動情報等を掲載して支援していく。

答

- 町内の空き家実態調査の予算を計上
- 町内の空き家の軒数、概要等の調査を実施する
- まちづくりを進める上で、人づくりは重要な要素
- 水と森の番人マイスター制度を実施していく



根岸 英一 議員

問
 ◎大井川鐵道減便による川根高校生徒の
 通学対策について
 ◎大井川鐵道への財政等支援について

質問 大井川鐵道は3月26日のダイヤ改正で電車を大幅に減便することを突然発表した。毎朝川根高校生徒が利用していた下り千頭行徳山発7時58分の電車が減便となり、生徒の通学に大きな支障をきたすことになった。

島田市では、大井川鐵道を利用して五和小・金谷中の生徒を対象に、スクールバスを運行すると新聞報道されたが、川根本町においては、川根高校の今後を考えた上でも支援が必要であると考えます。町の対策について伺う。

思いのもと、町も重く受け止め、その対策を講じているところです。川根高校の調査によると、減便により22名の生徒が代替的交通手段を希望しており、スクールバス運行の支援事業を進めています。マイクロバスを購入し、スクールバスとして無償で川根高校後援会に貸与します。運行に当たっての経費は町が補助するという支援です。



県立川根高校

町長 大井川鐵道は、利用者数の激少の一途をたどっており、SLを中心とした観光鉄道事業についても、東北大地震等の影響で著しく悪化しております。経営は3年連続の赤字の状況にあり、ダイヤ改正による大幅な減便を決定しました。

今までの経緯を説明しますと、2月3日に大井川鐵道から、今後の地域公共交通輸送としての必要性、社会的役割、路線の存続を含めた検討の場を設けていただきたいの意向から、島田市、川根本町へ協議会設置要望が提出され、2月24日に島田市、川根本町、県大鐵の4者とオプザーバーとして国交省が加

わり設立の準備会を開催し、大井川鐵道の経営説明、協議会のメンバー、規約等について協議をしました。また、協議会に幹事を置く項目があり、商工会、観光協会、PTAの代表等で組織される予定です。

資金援助等の支援についてですが、小さな町での財政支援には限界があります。大井川鐵道の存続、川根高校の存続等も踏まえ、支援は考えていかなくてもならないが、具体的に煮詰まっております。これから立ち上げる協議会の中で十分な協議を行い決定されるものと考えます。



川根高校入学式

答

- マイクロバスを購入し、スクールバスとして無償で川根高校後援会へ貸与する
- 今後立ち上げる協議会の中で支援策を検討する



蘭田 靖邦 議員

問

◎情報通信基盤整備事業の今後の対応
◎篤農家対策について

質問 情報基盤整備事業の今後の対応について伺う。

町長 財源と考えている国や県の補助金等のスケジュールに合わせて進めていく。無線中継局の電力は、設置予定箇所に商用電源が使用可能な地点を選定し24時間対応できるバッテリーを全ての中継局に設置する。耐震設備は、機器が集中するセンター設備には町が所有する耐震性の高い施設内に設置する。バックアップ回線については、ループ化が可能となるルートの確定を急いでいるがケーブルによる冗長化が図れない部分には一部無線の活用を検討する。設置運営後のメンテナンスについては、今後進めていく優先交渉権者と協定締結に向けて協議の中で検討していく。機器のバッテリー交換費用や

災害保険料は、町の負担となる。事業者負担による保守、点検を徹底させ、できる限り長いスパンの交換に努めていく。災害保険は、機器が集中するセンター設備の加入を検討している。全国自治協会建物災害共済事業の試算だと1億円の場合の年間保険料は1万7100円となる。

質問 設置後、さらに数年後の補助金、または基金の対応はどうか。

企画課長 財源的な負担、それはこれから検討していく事にもなるうかと思う。大きな負担が一度に来ないよう、に少しずつ基金として積み上げていくような方策も検討していく。

質問 ロケーションにあったサービスの展開について。

企画課長 情報基盤は新しいコミュニケーションをつくる有効な手段と

して考えている。町民全体で考えていけるサービス内容、問い合わせをして実際に使う方がより良いサービスとなるよう検討していく。運営業者とも協議し、サービスが将来的に提供できる基本となる基盤整備を進めていく。

◀各家庭へ設置している「お太助フォン」
(4月16日 広島県・安芸高田市視察にて)

質問 篤農家対策、テーマを決めて取り組む行政側の手腕を伺う。

町長 一くくりの施策では対応できないと考



えている。共同体、個人経営にかかわらず営農の意欲を強く持つている農家に対しての支援を考えていく。

産業課長 トップを走っている農家の支援としては、補完作物の推進、全品に取り組んでくださる方にはブランドの形成に更に支援をしていく。

質問 篤農家同志の個性の強さを使った連携も集約した支援の提供について。

町長 マイスター制度を導入する必要がある。篤農家の線引きというのは非常に難しい。選考をしっかりと形でマイスターの認定をしていく。長岡の温泉饅頭、以前は個々で販売していたが皆さんが一緒になって一つの箱の中に入れて大変売れた。販売段階で一体となれる組織も試行的に一度やってみたい。

答

- H26年度は基盤整備に集中し環境整備を次の段階に取りかかる
- 共同体、個人経営にかかわらず営農の継続意志をもつ農家対策を検討する



坂本 政司 議員

問 ◎低迷する茶業の振興対策について
◎少子化対策、子育て支援について

質問 近年茶業を取り巻く環境は大変厳しくなっている。農家への支援を今後どのような方法で行っていくのか伺う。

町長 現在、川根時間、茶縁喫茶等の取組を行い、地域を訪れたお客様を川根茶ファンとして引き込み、おもてなしを前面に出し、さらなる宣伝効果を狙っている。全品等への出品対応も継続して行っていく。他にも、茶以外の野菜類やゆず、渋柿等の果樹類の補完作物栽培の推進、発酵茶、白葉茶等の新商品開発を農林業センター施設を活用しながら取り組んでいきたい。特産物振興事業を継続し茶園改植、作業道開設、省力化施設整備を推進し進めていく。

質問 大規模篤農家だけでなく、小規模でも頑張っている農家があるのか。



急傾斜地の茶園

くさんあり川根茶が支えられているがその方たちへの支援策は。

産業課長 川根茶ブランドを維持していくためには川根茶産地としてだけでなく市場に供給できるかが非常に大事である。共同摘採、等にとり組んで頂き、色々な補助金制度を利用し、できるだけ長く営農を続けて頂きたい。

質問 耕作放棄地解消、乗用型摘採機導入の為の大規模基盤整備ができる補助制度等はあるのか。

産業課長 将来大規模な基盤整備が必要になると思うが国、県等の補助事業があるか詳細は把握していない。これから研究をする。

質問 子育て世代の人口減少により子供の数が減少している。少子化対策、子育て支援対策を伺う。

町長 定住人口増加、活力ある町づくりの為に結婚祝い金、出産祝い金の支給を行っている。独身男女に出会いの場を提供する縁結び事業を実施。地域の団体が出合いの場を創造できるように事業費の支援制度を立ち上げる。福祉課、生活健康課合同による川根本町未来子供育成支援事業を計画。ゼロ歳児から中学卒業まで医療費自己負担無料制度を実施している。

質問 医療費自己負担無料事業を高校卒業まで拡大する考えはあるか。

町長 今現在、中学卒業までの無料化を23年度から始めたばかりであり、今後の検討課題だと思ふ。

質問 二人目、三人目の子供を、と迷っている人に決断を促す意味で、出産祝い金の増額を検討する考えはあるか。

町長 手厚くモデル的にやる必要があるし議論する必要がある。この地域では特徴ある、特化した形の補助制度も検討し、対応するとしても今は言えない。



入学式(中川根南部小学校)

答

- 高級、高品質感を印象付けるPRの取組、特産物振興事業の継続、各種補助事業の利用促進
- 結婚、出産祝い金の制度継続、ゼロ歳児から中学生までの医療費自己負担無料制度実施



芹澤 廣行 議員

問

◎基幹産業である茶の平成26年度の
一番茶の生産実態調査について
◎青部、高郷、富士城バイパスの完成時期について
町長の考えと抱負について

質問 お茶の地区別の生産量について。

町長 農家個々を訪問調査することは現実的な問題として非常に難しいが、町内の共同工場の生産量、川根茶業センターの取扱量を基に、より正確な生産量を収集していきたいと思っています。

質問 地区別摘採時期の現状把握について。

町長 例年ですと南部地区が4月下旬、北部地区が5月10日頃から摘採が始まるのが恒例であるが、県、大井川農協と共に生育調査として茶園巡回を行ない、現状の把握に努めていきたい。

質問 町内の耕作放棄茶園の面積について。

町長 耕作放棄茶園の面積は、現在町内に約32ヘクタールほどが存在していることを確認しております。

質問 茶生産農家の今

後の生産動向について。

町長 25年7月から12月にかけて、町内31共同工場、91個人工場への聞き取り調査やアンケート調査を行った結果、町内の共同工場では一番茶、二番茶の生産が乗用茶刈り機を利用し、共同摘採、共同作業の取り組み姿勢も多く見られ、また、拡大意向を持つ工場も複数あり、お茶の生産意欲が見られたが、北部地区の多くの茶農家では、二番茶の収穫は行わなかったという状況です。



増え続ける放棄茶園

質問 平成26年の茶の生産量実態調査について、役場職員の協力ができないか。

町長 これまでの地区懇談会で申し上げたとおり、地域の実情に詳しい町職員等にも協力を得るといった形で対応していきたいと思っています。

質問 青部、高郷、富士城バイパスの完成時期について、町長の考え、抱負について。

町長 現在、本町内の国道事業は、青部、富士城バイパス、それと過疎代行事業で施工中の町道高郷田野口停車場線(上長尾バイパス)の3路線です。このうち特に早期の完成が望まれるのは青部バイパスです。

合併前の旧中川根町と旧本川根町を文字通り一体化する役目を持つばかりでなく、産業、観光面でも多大な効果があるというふうに思っております。

質問 バイパス早期完成を目指して町民の出

来得る仕事、協力等(陳情活動)について。



青部バイパス工事箇所

町長 国道・県道整備に関しましては、町民の意見が現実になるよう、町も一緒になって頑張っていきたいと思っています。

その中で、国・県の力が必要だという中で、国会議員にもお願いすべきということですが、当然の話で、そのようなことは毎度お願いをしているということであり、また、一緒に陳情等もお願いした経緯もあるということとを御理解いただきたく思います。

答

- お茶の生産量についてはより正確に出るように、詳細に収集をしていきたいと思っています。
- 県、国へ一日でも早い全面開通の要望を続けてまいりたいと思っています。



野口 直次 議員

問

◎これからのまちづくりの方向性を問う
情報通信事業早期利活用、川高支援、
集落存続、町の委員会設立、地区要望等
◎国道早期復旧・5月連休に間に合うか

質問 情報通信整備事業の早期の利活用の考えを。今後検討しているか。今後検討しているか。今後検討しているか。

町長 町が抱えている課題解決のためのインフラ整備で、安心して住める町づくりを進める為、同報無線を含む防災対策、医療に関する利活用はできる限り

早期に、高齢者に対しての活用についても関係機関とも十分に協議し利用しやすいものを検討していきたい。

質問 夢づくり・まちづくりの委員会設立を求める。

町長 新たな会を立ち上げることは考えていないが、具体的な施策の中で各分野の策定、審議委員会等、必要と思えば各課で対応して立ち上げていく。現在「夢づくり懇話会」と言う各分野で活躍され

ている皆さんが集まって対応している会がある。

質問 町政懇談会の地区住民の意見・要望をどのように町政に反映させるか。

町長 実に様々な意見や要望をいただいた。今後優先順序をつけながら、この問題を一つ一つ解決していくことが必要。

質問 川根高校への町として今後の早急かつ具体的な取り組みを問う。今年度定員80名、入学者42名、慢性的な定員割れの中で、全町児童生徒数が中学3年生を除き各学年で40名以下と聞いている。その中で高校存続に当たり、国・県とも検討、相談して、もし教育特区のような形で全国から川根路に安心して就学できるように、全寮制、寄宿舎を併設して、全国に自然に恵まれた

教育環境をPR、山村留学を募集、又、小・中学校を含めた、一貫併設した学校教育転換を。前例がなければ前例を作っていたら、夢を本当に実現しないと、存続の危機は去らない。町内において早急に対策を。高校はもちろん、町民も自分の子どもだと思っただけで、わり続けてほしいが、町の考えは。

町長 高校は設置者が県であることから、町教育委員との直接的な権限関係は存在しない。直接町が関与はできない。高校に対して側面的支援であること。大規模の減便、遠隔地からの川高生徒募集には下宿先の問題等、現実町としてできるだけ支援を構ずる手だてをしている。あらゆる方法で今後検討する。

質問 集落存続の為、住民の小さな声を取り上げる窓口一本化を要請する。

町長 役場職員が地域の行事などに積極的に参加し、地域支援を行う中、地域の皆様方の声をお聞きできるのではないか。又、職員のない地区は情報基盤整備の受信機を利用して意見・要望を聞けるシステムを今後考えていく。



国道362号・復旧現場(水川地内)

質問 国道(水川)の早期復旧と、農道水川西川原線の改良工事の見通しについて、ゴールデンウィークに間に合うか。

町長 5月下旬に全面開通に。国道利用し当分は片側交互通行になります。可能な範囲で、地元の皆様と協議して、今年度事業で農道整備、農道改良工事を実施。いろんな形でご協力をお願いできればありがたい。

答

- 町を上げて地域目線に立ってまちづくり、人づくり、情報通信事業、川高支援、集落存続等、全力で取り組む
- 5月下旬開通予定、連休一時通行可能に



小藪侃一郎 議員

問
 ◎各地区懇談会について
 ◎最低限の情報通信基盤整備とは
 ◎情報通信基盤整備について

質問 23回の地区懇談会の所見を伺う。

町長 基本的にこれからの町づくりに千年の学校を立ち上げた時の精神が必要です。この千年の学校の目標と言いますのは、地域を地域で学ぶこと、その結果、誇りある人々をつくりだす「人づくり」、人が自然や環境、景色を美しく磨き、心から来訪者をもてなす地域の「魅力づくり」、それが人々を呼び込み、交流し、物が行き交う「活力づくり」となるものです。人が活力をつくり出し、魅力が活力を生み、その活力がまた人を作る。その循環が次第に大きく潮流となりスパイラル状に高みに上っていき、この循環型の地域づくりこそが千年の学校の目標であったということをご認識しております。

原点到って再構築をしていきたいと考えております。平成26年度には、課題等を解消するよう実施体制の見直しを視野に入れて、できる限り目標に近づけるように努力をしたいと思います。やはり人づくりを最優先にやっていく必要があると思っております。

質問 AEDの設置の要望の対応を伺う。

町長 何カ所かの地区懇談会で出ておりました。その都度、私申しましたのは、管理がしつかりすれば、そこへは町のほうから提供したいということをお願いしました。

質問 平成26年度の地区懇談会の会場でも意見が寄せられました。各地区集会所等への発電設備に関する件であります。地区集会所では、防災直後の一時避難所としての利用を見込んでおります。発電施設に限らず、様々な資材の配備拡充の必要性、重要性は十分認識しているところであります。

質問 23回の地区懇談会の所見を伺う。

町長 平成26年度の当初予算計上については、主な財源となる国や県の補助金の見込みが立ちそうになったこと、また、補助金以外の金額となる合併特例債の借り入れには当初予算での計上が必要という事が主な理由です。



昨年末から計22回開催された町政懇談会(写真は藤川)

質問 今後情報機器等の説明をどのようにしていくか。

企画課長 受信器の内容を説明が出来ない中で進めて申し訳ありませんでした。ただ、今後、議決する前には実際に使っている先進地地域へ赴いて、住民の意見を十分把握して吸い上げて、改善をしていくことがこれからは大事になってくると認識しております。

答

- 地域づくりは人づくりが必要と思う
- 先ず国や県の補助要件を満たす整備が最優先
- 意見を聞きながら利活用を検討する。

容と使用方を十分に説明していく事が大事だと考えています。



鈴木多津枝 議員

問

- ◎26年度予算と住みよいまちづくりを問う
- ◎法定外繰入で国保税等の町民負担軽減を
- ◎情報基盤整備事業のアンケート実施を

質問

アベノミクスによる消費税増税や社会保障の改悪など8兆円もの国民負担増が強行される下、国民年金受給者3千5百人、平均月額約7万円の当町で負担は限界。町長が目指す高齢者の目が輝き、若者が喜んで来てくれる町実現の観点から、百億円余の新年度予算の効果を問う。



三つ星キャンプ場の遊具

①安全・安心の立場から浜岡原発再稼働に反対の姿勢を示す考えは「核兵器廃絶・平和のまち宣言」横断幕・垂れ幕の掲示を。
②「核兵器廃絶・平和のまち宣言」横断幕・垂れ幕の掲示を。
③三つ星キャンプ場へ290万円の遊具設置より、子どもが増えている住宅などへ遊び場・遊具の設置を。
④千頭温泉ポンプ改修費用効果と梅島下温泉スタンド活用について。
⑤子育て環境が良い徳山に若者住宅建設を。
⑥寸又峡温泉にバイオマス発電・給湯施設を
⑦大鐵にバス料金で乗れる運賃補助を。
⑧国保税・介護保険料などの負担軽減を。

町長

26年度予算の柱は「安心して住めるまちづくり」、「農林業が元気で豊かな経験・自然を生かしたまちづくり」、「交流とふれあいのまちづくり」で、県下一高い高齢化率、医療体制、若者人口減少、少子化、主要産業低迷等、町が抱える課題解決を取り組み進める。



梅島下の温泉スタンド

①国の政策でどのような方向でいくか分からないとき末端の首長が判断はできない。
②核兵器廃絶の横断幕は、安心安全のために対応は必要と考える。
③現場を見たが最適と思えない。十分検討したい。住宅への遊び場は要望を出してもらえば聞く姿勢はある。
④千頭温泉はポンプで汲み上げていくがスケールが多く3〜4年毎に改修
⑤若者住宅建設の構想は今はない。
⑥90%森林の町で本来木質バイオやるべき。町に製材会社がほとんどなく原材料確保が高つくし難しい。
⑦大鐵を地元で支援する方向性は間違っていないと思う。

商工観光課長

④千頭温泉はポンプで汲み上げていくがスケールが多く3〜4年毎に改修

質問

15億円余の情報基盤整備事業について整備・運営内容や将来負担の見通し、町民参加の委員会や町民アンケートの取り組みは？

町長

光と無線地域に分けて整備する。維持管理費は年間約1千万円、修繕費は約5百万円、将来予測される更新費用は10年後4億円、20年後9億円。委員会

答

- 今の行政には町民の要望を聞く姿勢はある
- 法定外繰入は運協や議会の協議をお願いしたい
- 町民にはどういう利活用が必要か聞いていく

が必要。温泉は重要な観光資源。梅島下は湧出量少なく温度も低い。河川敷前なので施設拡大は困難。どのような活用が可能か調査したい。

は考えていないが利活用について町民の意見は聞いていきたい。

議 会 日 誌

1月

- 5日 町消防団出初式
- 12日 平成26年成人式
- 20日 森林環境税創設促進議員連盟
県加盟市町議会打合せ会
・ 県地方議会議長連絡協議会第2回研修会



平成26年成人式(文化会館)



生涯学習のつどい(文化会館)

2月

- 10日 川根地区広域施設組合平成26年第1回定例会
- 17日 駿遠学園管理組合平成26年第1回定例会
- 21日 高度情報基盤整備事業に関する説明会
- 23日 生涯学習のつどい



要請書提出(大鐵・本社)

3月

- 1日 川根高校卒業式
- 4日～18日 平成26年第1回定例会(3月議会)
- 5日 大井川鐵道へ要請書提出
- 19日～20日 町内小中学校卒業式
- 21日 第9回川根本町茶業者大会

◆ 6月定例会の日程 ◆

13日	金	議会運営委員会 (9:00～)
17日	火	全員協議会 (9:00～)
26日	木	6月定例会・本会議 (9:00～)
7月2日	水	6月定例会・本会議 (9:00～)

- 会場は全て川根本町役場本庁の3階です。
- 本会議はどなたでも傍聴できます。
- 日程は変更することもありますので、詳しくは議会事務局(☎56-2229)までお問い合わせください。

編集後書

桜の花が散り掛かると竹の子の出る時期である。しかしいつも猪に先を越されてしまう。地下20cm位は臭いでわかるらしい。これでは太刀打ちできない。猪の目こぼしは、猿が食べる。なかなか口には入りにくくなってしまった。

委員 森 照信
副委員長 山本 信之
委員 小藪 侃一郎
委員 太田 侑孝
委員 鈴木 多津枝
委員 蘭田 靖邦

編集委員
(第一常任委員会)



時期にしか食べない。親に教わるのか、季節がわかるのか。できれば竹害で迷惑している地域で奮闘してもらいたいものである。(T・M)